Higashisaga Hospital
ひがしさが
National Hospital Organization
HIGASHISAGA HOSPITAL
独立行政法人国立病院機構東佐賀病院　広報誌
ホームページ　http://www.higashisaga-hosp.jp

2018 秋季号
Vol. 49

【発行所】
佐賀県三養基郡みやき町
大字原古賀7324
独立行政法人国立病院機構 東佐賀病院
【編集発行】広報委員会

《基本理念》

信頼関係を大切にし、
地域に根ざした
良質な医療を提供します。

外来駐車場のイチョウの木

鳥栖・三養基地区消防事務組合との症例検討会について

経営企画室長　相島　正子

当院と近隣消防関係者との症例検討会は数年前迄は数回開催されていたものの、近年は途絶えていた。当院の救急車受入数については、平成25年度をピークに右肩下がりの状況が続き、平成29年11月からホットラインの運用により本年度は昨年を上回るペースで受入数を確保しているものの、近隣の消防署からは、更なる軽症・中等症の患者の受け入れやCPA受入体制の強化を要望されている。

そこで、「お互い顔の見える関係作り」の一環として、平成30年6月29日に症例検討会を実施した。症例報告の前に、鳥栖・三養基地区消防事務組合についての概況、医師の具体的指示が必要な救急救命士の特定行為について説明があり、今回は糖尿病関連の搬送についての症例を２例検討した。

業務多忙の中、鳥栖・三養基地区消防事務組合から15名の救急隊員の参加をいただき、当院からも関係部署から多数参加し、症例後の懇談会でも活発な意見交換が出来た。

今後も、定期的に症例検討会を開催し「顔の見える関係性から意見が言える関係性」を構築し、地域医療支援病院として救急医療を提供する責務を果たしていきたい。

目　次

＊題字「ひがしさが」　平野　長熙　名誉院長　書

■ 鳥栖・三養基地区消防事務組合との症例検討会について … 1
■ 第２回　感染予防対策セミナーを開催しました …… 2
■ 消防訓練について …… 3
■ 平成30年度　第２回　ストップ糖尿病対策事業について … 4
■ ふれあい看護体験 …… 5
■ 呼吸器公開講座を開催して …… 6
■ 重症心身障害児・者病棟　秋祭り …… 7
■ 地域医療支援病院医療従事者研修を終えて …… 8
■ 工事及び作業完了のお知らせ …… 9
■ 地域医療連携室のご案内 …… 10
■ 外来診療担当医表 …… 11
■ 病院アクセスマップ …… 12
■ 地域医療研修センターのご案内 …… 12

第2回　感染予防対策セミナーを開催しました

感染管理認定看護師　副看護師長　古瀬　法子

第１回感染予防対策セミナー（５月30日開催）に引き続き、７月25日に第２回「感染拡大する病原体と要因について～このひと手間が命を救う～実践編」を開催しました。２回目は‘実践編，と謳いましたので、環境の汚れに潜む病原体の種類と清掃方法についてお伝えしました。日常清掃の基本は、汚れを取り除くことです。同様に、感染予防対策の基本も「汚れを付けない、運ばない、取り除く」であり、その為に必要な‘ひと手間，をお伝えしました。

終了後に、参加頂いた方から「このひと手間なら出来そうですね」「清掃用品を見直す機会となった」と嬉しいご意見を頂きました。地域の方々と共に取り組む感染予防対策が、また一歩前進したと感じています。

消防訓練について

管理課庶務班長　波多　一郎

平成30年７月31日に自衛消防訓練（夜間想定）を行いました。今回は地域包括ケア病棟で火災発生の想定でした。地域包括ケア病棟で実際火災が発生した際には高齢の入院患者が多いこともあり避難誘導は困難を極めると予想されます。

今回の避難訓練より、管理当直から消防への通報連絡を現場から消防に通報するようにし、病棟看護師が病棟にある固定の消防通報用電話から、消防と連絡をとりました。

また、地域包括ケア病棟は３階にあるため、避難の際には２階に下り、リハビリ室の中を横切り、２階のスロープを経由して外にでるという避難経路になります。今回はその複雑な避難経路の確認もすることができ、全員の身になった避難訓練であったと思います。

平成30年度
第2回 ストップ糖尿病対策事業について

管理課庶務班長
波多　一郎

当院は佐賀県「ストップ糖尿病」対策事業（二次医療圏単位医療機関及び関係者連絡会及び糖尿病を取り巻く医療機関の為の環境整備）の東部医療圏の受託医療機関です。

活動内容は年間３回程度の会議の中で方針・進捗などの確認を行い、参加者のそれぞれの立場、各市町村保健師、当院糖尿病コーディネートナース、鳥栖・三養基医師会の医院、専門医療機関としての東佐賀病院が、それぞれ協力して様々な活動を行っています。

佐賀大学医学部及び基幹病院（当院）を中心に、糖尿病患者の未治療者やコントロール不良者及び治療中断者を抽出し、その患者の支援の方策や病状の重症化を防ぐことを検討するために、今年度は２回の会議を開催しました。

第１回の会議では、各市町村の集団検診の実施状況と結果の内容確認をしました。今年度の重点目標を固めるべく議論しましたが、なかなか良い案がまとまらず近々で再度会議を開催することとなりました。

第２回の会議では佐賀大学病院の安西教授の講義があり、現在の糖尿病医療について政策的な面も含めてお話しをして頂きました。特に糖尿病性腎症の重症予防に対してデータヘルス計画の基本的な考え方とCKDとの関係についてご講義頂きました。

会議の中では東部医療圏が特殊な立地であること、特に福岡との県境であるため、どうしても久留米に患者が流れていってしまうこと等が話され、安西先生も含めて久留米大学との連携を行ってはどうかと言った案も出ました。

最終的には、糖尿病の病気分類の中に当てはめられた各分類の患者の総数をそれぞれ減少させることを目標としました。

現在東佐賀病院の糖尿病連携医療機関は18病院あり、今年度参加医療機関を増やすべく糖尿病・内分泌内科医師２名、コーディネートナース５名を中心に活動を行っています。

ふれあい看護体験

看護部サービス向上委員会
林田　智子

「ふれあい看護体験」は、市民のために保健医療福祉施設がドアを開き、見学や簡単な看護体験、関係者との交流などを行うイベントです。市民が医療・看護・介護関係者と一緒にこれからの保健医療福祉について考えたり、実施施設にとっては地域とのコミュニケーションや情報提供のきっかけとなっています。

８月22日（水）に佐賀県内の高校生を対象に「ふれあい看護体験」を実施し、９名の参加がありました。参加した高校生はナース服に着替え、実際に患者さんが入院している病棟で看護体験を行いました。病院の構造や設備の説明から、患者さんとのコミュニケーション、バイタル測定、車椅子移乗体験、清拭や食事介助などの援助の見学や、リハビリテーション場面の見学、療育参加など普段なかなか体験出来ない看護体験が出来たようです。初めは緊張で表情の硬かった高校生も、看護体験を通して笑顔が見られるようになりました。重症心身障害児（者）病棟では、驚き少し怖いという感情を抱く学生もいましたが、看護師と共に患者さんとふれあう中で、「患者さん一人一人に合わせた食事や、車椅子を見て、患者さん一人一人の事をしっかり考えてあり、とても良いなと思った。」「患者さんと接している時、とても素敵な笑顔で、だから患者さんから信頼されるんだと思った。」「看護師は意外と力仕事が多かったのが意外だった。」など看護体験を通して印象が変わったと言う声も聞かれました。

終了後のアンケートでは、９名の学生が、ふれあい看護体験に参加して「非常に良かった」と回答しており、８名の学生が将来看護師になりたいと回答していました。

今回の看護体験を通して、看護は大変ではあるが素晴らしく、やりがいのある仕事であることを伝えることが出来たのではないかと思います。学生から体験を通して「看護師になりたいという夢がさらに強くなった。」「人の気持ちをよく考えて行動することを心がけたい。」「仕事にやりがいを持てる看護師になりたい。」と言う嬉しく、心強い意見がありました。学生との関わりを通して、私達が看護師を目指した頃の気持ち、日頃の看護を振り返る良い機会となりました。

今後も看護職を目指す人が増えるよう、看護の魅力をより多くの人に伝えていきたいと思います。

呼吸器公開講座を開催して

１病棟　看護師　羽根　美智子

当院では昨年度より、呼吸器公開講座を年に３回開催しております。現在はすでに２回の講演が終了したところです。当院では本年度より全館禁煙となったことで、１回目はタバコの害と禁煙について呼吸器内科の医師と看護師より講演を行いました。２回目は管理栄養士より呼吸器疾患（COPD）の栄養療法について、理学療法士より呼吸器疾患（COPD）の運動療法について講演をさせていただきました。

私は呼吸器内科病棟に勤務しており、普段から喫煙を主な起因とするCOPDの患者様と接する機会が多くあります。COPDの患者様の多くは、重症化し、入退院を繰り返す方も少なくありません。看護をする中で「もう少し早く受診していただけたら」「もう少し早く禁煙できていたなら」と歯痒く思うことも少なくありません。また、COPDという疾患の認知度の低さにしばしば驚くこともあり、地域のみなさまにこの疾患について少しでも知っていただきたいという思いを持って本年度の講演のテーマに選定しました。講演には地域の方や施設職員の方などにご参加いただきました。みなさん熱心にメモを取りながら受講をされ、質疑応答では多くの質問をいただき、改めて地域のみなさまの健康に関する関心の高さを感じることができました。昨年度に引き続き、講演後は肺年齢測定、各専門職による相談コーナーを設け、ご好評いただいております。

本年度はもう１回、12月に最後の講演を予定しております。テーマは「季節性感染症の予防について」を看護師より、「ワクチンについて」薬剤師より講演を行う予定です。当院の基本理念である「信頼関係を大切に、地域に根ざした良質な医療の提供」を目指すべく、この呼吸器公開講座が地域のみなさまの健康活動のきっかけになればと考え、精進していきたいと思っております。

重症心身障害児・者病棟　秋祭り

療育指導室　保育士
迫田　洋美

９月上旬、重症心身障害児・者病棟の秋祭りが４日間に渡り開催されました（５日「親子ふれあい秋祭り」、12日「秋祭り」、13日・14日「病棟内秋祭り」）。

まず、５日の「親子ふれあい秋祭り」についてですが、今年はこれまで保護者の会主催で別に行っていた「親子ふれあい会」と併せて実施することとなりました。院長、保護者の会副会長の挨拶に始まったお祭りは、利用者64名、ご家族73名、ボランティア21名、スタッフ22名の総勢180名の参加で、メイン会場となった旧デイケア棟は満員でした。準備段階から病棟と会場間の人の移動に混雑が予想されましたが、各病棟の行事委員の方の様々なアイデアや当日のスタッフの方々のご協力のおかげでスムーズに移動出来ました。

お祭りの中では、綿菓子やかき氷が利用者さんに提供され、賑やかな雰囲気の中で美味しそうに食べる様子や、スタッフ特製「秋祭りフレーム」を使った写真撮影では、笑顔でカメラに視線を向ける様子が見られていました。また、メインイベントとして、西九州大学の学生集団による和太鼓演奏と佐賀交響楽団による弦楽四重奏が披露されました。迫力ある太鼓の音や四重奏の美しい音色に、目を大きく開けたり、じっと見入ったり、さかんに拍手する利用者さんの姿が見られ、ご家族と共にゆったりとした時間を過ごされていました。

12日の「秋祭り」は療育訓練棟で開催され、利用者57名、ご家族15名、スタッフ22名、ボランティア９名の計103名が参加されました。５日と同様に佐賀交響楽団の弦楽四重奏の演奏をじっと聴き入ったり、歌を口ずさんだり、手拍子をしたりする利用者さんの姿が見られていました。また、スヌーズレン室に展示したブラックライトで光る花火の絵（各病棟で利用者さんと一緒に制作しました）を鑑賞したり、綿菓子やかき氷を嬉しそうに食べたりする姿も見られていました。

13日と14日の「病棟内秋祭り」では、５日または12日に参加できなかった利用者さんを対象に行いました。綿菓子やかき氷の提供に加えて、お神輿が一人一人の利用者さんの側を回ったり、バルーンアートや金魚すくい、花火の制作を行ったりする等、大きな会場で行う秋祭りとはまた違った内容で実施しました。デイルームまで出て来られて参加する利用者さんも、ベッド上で参加する利用者さんも、皆さんがお祭りの雰囲気を体験されました。

秋祭りにご協力、ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

地域医療支援病院医療従事者研修を終えて

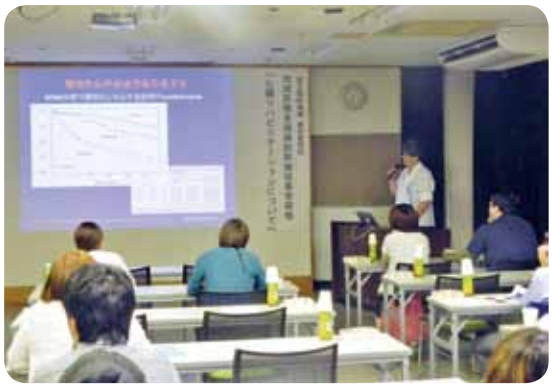
理学療法士　山田　進也

９月18日　当院研修センターにて、心臓リハビリテーション（以下心リハ）についての講義をする機会を頂きました。研修は２部構成で、まず、第１部で循環器内科の田中先生より心不全の病態と生活管理についてご講義頂き、私は第２部で心不全のリハビリテーションについての話をさせて頂きました。以下研修の簡単な内容と、心リハと地域の課題について紹介させて頂きます。

心リハとは、簡潔に言うと心疾患患者を対象に行う多職種介入の包括的リハビリのことです。運動器や脳血管疾患に対するリハビリと比較すると、まだまだ知名度は低いのですが、最近では、心不全患者への心リハの重要性が脚光を浴びています。現在、日本における高齢化率27％に対しみやき町では33％となっており、日本の20年後を先取りしているような状態です。そのため、必然的に高齢心不全患者が多い地域といえますが、東部地区全体でみると、心リハ施設数や心リハ指導士数は十分とはいえない状況です。そのため心不全増悪による再入院をいかに防いでいくかということは今後地域全体の課題になっていくと思われます。

現在のところ、心不全増悪による再入院減少には、外来心リハでの包括的疾病管理が有用といわれていますが、地域包括ケア病棟を最大限に活用することでも同様の効果が期待できると考えています。多職種介入による心リハ･患者指導を行いながら、ソフトランディングで退院することが高齢心不全患者には肝要と思われます。その上で地域との連携は必須であり、包括病棟は、医療（心リハ）と介護をつなぐ架け橋としての役割も求められているといえます。

今回の研修を担当するに当たり、東部地区全体の心リハの状況や課題、また当院が求められる役目を再認識することができました。このような貴重な機会を頂けたことを深く感謝しています。今後ともよろしくお願い致します。



工事及び作業完了のお知らせ

企画課業務班長　野林　雄市

公共下水道接続整備工事

平成30年９月11日（火）に平成30年度公共下水道接続整備工事が完了しました。

今まで下水については、自院で設置した総合汚水処理施設を使用し、浄化処理を行った上で放流しておりましたが、今後はみやき町の下水道を使用することとなりました。

みやき町の下水道を利用することで、総合汚水処理施設の保安料や維持費が削減され年間500万円程度の経費節減が可能となる見込みです。

停電作業

平成30年９月６日（木）と19日（水）の２日間で非常用電源と一般電源の電気設備保安点検を実施しました。点検の結果、非常用電源が問題なく稼働することが確認でき、絶縁抵抗測定の結果も大きな不具合はありませんでした。地震やその他の災害はいつ起こるかわかりません。今後とも自ら被災することを想定し、業務継続に必要な設備の確保と点検に努めて参ります。

また、カササギ（通称：カチガラス）が電柱に巣を作ることによる漏電防止工事も同時に施工しました。カチガラスは当院のシンボルマークにもなっていますが、電柱上に巣を作るため漏電する危険性があります。『生息地を定めた国の天然記念物』に指定されており、指定地域内でカササギの巣を取り除かなければならない場合は、停電事故防止のためであっても文化財保護法に基づく許可が必要なため、すぐには撤去できずに苦慮していました。今回、電線を支えるアームを取り付けることにより、巣を作っても漏電しない対策を行い、雛が巣立った後に撤去すればよいことになり、人にもカチガラスにも安心になりました。

地域医療連携室のご案内

《ご利用方法について》

1．ご紹介いただく場合について

「診療情報提供書（当院様式以外のものでも結構です）」に必要事項をご記入いただき、ファックスにてご連絡下さい。診療情報提供書をすぐに送信いただけない場合は、直接、新患担当医師又は各診療担当医まで電話にてご連絡下さい。その場合の診療情報提供書は、できるだけ患者様が受診される日時までに、地域医療連携室までFAXいただきますようお願い致します。

2．緊急時のご紹介について

緊急を要するご紹介は、直接各診療科医師へご連絡下さい。

患者様の症状などを医師同士でご確認していただくことにより、受入体制、各種検査室の手配など迅速に対応できます。また、救急搬送によるご依頼の場合には、救急当番医師が対応致します。

3．患者様へのご説明について

受診当日に「予約案内書」「診療情報提供書」「健康保険証」をご持参のうえ、外来受付窓口へご提出いただきますよう説明をお願い致します。

4．ご報告について

診療結果につきましては、地域医療連携室または担当医から、ファックス若しくは郵便にて速やかにご報告申し上げます。なお、報告がないようでしたら地域医療連携室までご一報下さい。

5．入院のご依頼について

入院をご希望の場合でも、いったん当院の医師の診察後に決定させていただきますので、ご理解の程お願い申し上げます。なお、緊急の場合は直接各診療科へお電話いただき、担当医にご相談いただきますようお願い致します。

6．その他

お問い合わせ、ご不明な点やご意見ご要望等がございましたら、いつでもご遠慮なく「地域医療連携室」へお知らせ下さいますように、お願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構 東佐賀病院 地域医療連携室

ご連絡は下記のファックス又は電話をご利用下さい。

代　表：TEL 0942 (94) 2048 内線309
直　通：TEL 0942 (94) 2058　FAX 0942 (94) 3748
（FAXは24時間受付）
E-mail：renkei-56@hosp.go.jp
＜平日／午前８時30分～午後５時15分＞

※平日午後５時以降及び土・日・祝祭日受付分は、翌日など出来るだけ早急に返事を送らせていただきます。

外来診療担当医表

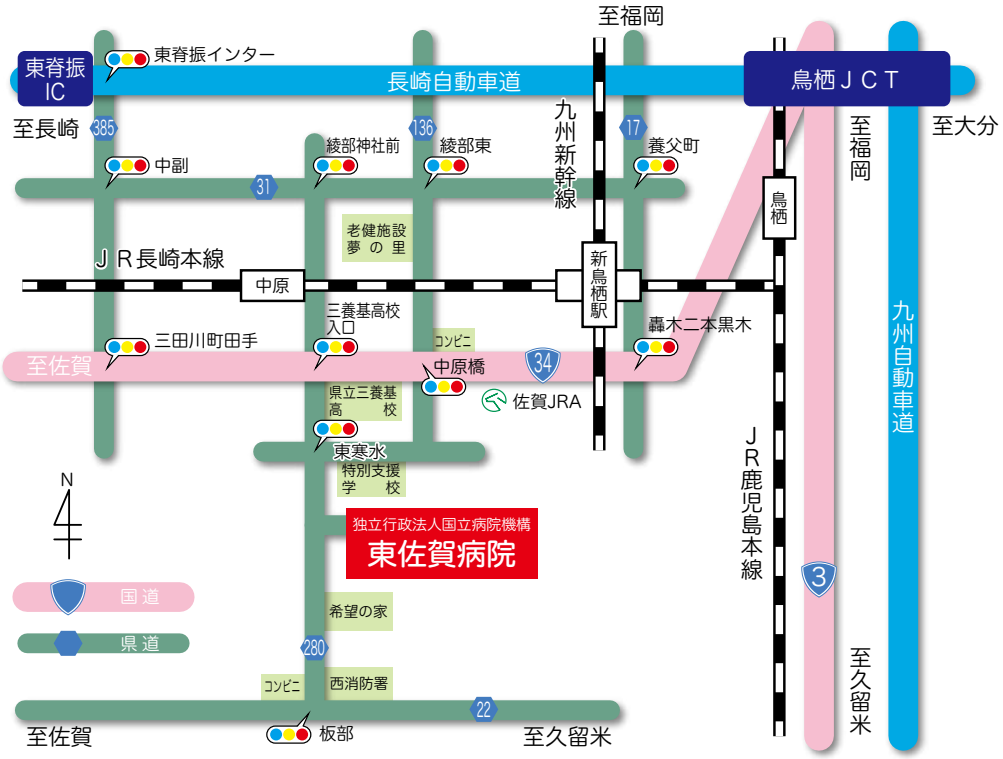
独立行政法人国立病院機構
東佐賀病院
FAX 0942-94-3137
ホームページ http://www.higashisaga-hosp.jp

（受付時間）月曜日 ～ 金曜日（祝日を除く）
新患・再来／8：30～11：30　※急患はこの限りではありません
小児科受診の新患・再来／8：30～11：30、14：00～16：30

診療科目				月	火	水	木	金
内科	新患			貞松　篤（循環器） 小林　弘美（呼吸器）	千布　節（呼吸器） 髙木　佑介（糖尿病）	大井　順二（消化器） 田中　直寛（循環器）	犬山　正仁（呼吸器） 吉村　昌也（消化器）	大井　順二（消化器） 那須　俊甫（糖尿病）
内科	再来	呼吸器		千布　節	小林　弘美	小林　弘美 犬山　正仁		千布　節
内科	再来	消化器		吉村　昌也	大井　順二		大井　順二	吉村　昌也
内科	再来	循環器			貞松　篤	貞松　篤	田中　直寛	田中　直寛
内科	再来	内科						
内科	再来	糖尿病・内分泌		髙木　佑介	那須　俊甫	那須　俊甫	髙木　佑介	重本 里美（9:30～）
内科	専門	甲状腺						
内科	専門	肝臓専門外来		稲富　千佳				
外科	消化器			北島　吉彦 田中　雅之	北島　吉彦	田中　雅之	北島　吉彦	田中　雅之
外科	呼吸器				辻　博治	辻　博治	辻　博治	辻　博治
外科	乳腺外科（予約制）							北島　吉彦 田中　雅之 （午後1：30～予約制）
小児科	一般		午前	山本　修一	荒牧　修一	山本　修一	中西　未来	横田　吾郎
小児科	一般		午後	横田　吾郎	荒牧　修一	佐賀大学	中西　未来	今吉美代子
小児科	専門	アレルギー（予約制）	午前				前田（第２） 柳瀬（第３）	
小児科	専門	アレルギー（予約制）	午後	山本 / 田中				
整形外科	一般			本岡　勉 水田　和孝	本岡　勉	本岡　勉 水田　和孝	本岡　勉 水田　和孝	水田　和孝
整形外科	専門	骨粗しょう症						
整形外科	専門	関節		上通由紀子	上通由紀子		上通由紀子	上通由紀子
整形外科	専門	形成			当面の間休診いたします。			
放射線科				江頭　玲子 （9:00～11:00）				
消化器内視鏡				大井　順二	吉村　昌也	吉村　昌也	田中　雅之	
呼吸器内視鏡						辻　博治		
心エコー								
眼科					午前		午後	

- 栄養相談は、月曜日～金曜日まで毎日行っています。
- 金曜日の乳腺外来は予約制ですので、事前に外科外来にご予約下さい。
- 小児アレルギー外来は、小児の喘息、アレルギー性鼻炎やアトピーなどの診察、相談を行っています。
  小児アレルギー外来、予防接種は予約制ですので事前に小児科外来へご予約下さい。
- 眼科外来は、当院にて治療中の患者様に限ります。

病院アクセスマップ



1. JR長崎本線普通列車「中原駅」下車。
   南へ徒歩15分(1.4km)
   - 鳥栖駅～中原駅間　約９分
   - 佐賀駅～中原駅間　約17分

2. 西鉄バス〔西鉄久留米〕～〔鳥栖駅〕間（あやべ経由41番）の「東佐賀病院前」にて下車。
   - 西鉄久留米より　約30分
   - JR久留米より　約20分
   - JR鳥栖より　約30分

3. 九州自動車道及び長崎自動車道
   - 鳥栖インターより（国道34号線経由）　約30分
   - 東脊振インターより（県道31号線経由）約20分

地域医療研修センターのご案内

本センターは医療従事者の方であれば利用者の職種は問いません。
病院の職員をはじめ地域住民の皆様、及び医療機関の皆様、講演会・研修会・勉強会等医療・健康に関するコミュニケーションの場としてご利用下さい。

●お申し込み・お問い合わせ先●

東佐賀病院
管理課庶務係
☎0942 (94) 2048
（内線 333 又は 219）

編集後記

秋も終わりを迎え冬がやってきます。
季節が移り変わるにつれ、肌寒い季節から本格的に寒くなってまいりました。
風邪を引かないよう十分に気をつけて、過ごしていきましょう。

（広報誌委員会）